

## 第4次食育推進基本計画の重点課題の方向性（たたき台）

## 第3次食育推進基本計画

&lt;コンセプト&gt;

実践の環を広げよう

SDGsの目標は、食育の推進によって貢献可能

## 第4次食育推進基本計画

&lt;コンセプト&gt;

食育によるSDGs達成への貢献

## &lt;主な論点&gt;

- ・新しい生活様式では、家族と過ごす時間が増える一方で、例えば地域での共食など、これまでと同様な取組が難しい状況
- ・デジタル化の推進、暮らし方や働き方の変化に応じた食育を推進していく必要
- ・高齢化の中で、健康寿命の延伸が課題であり、子供（乳幼児期を含む）から高齢者まで生涯を通じた食育の推進が重要
- ・栄養教諭や関係者等と連携して、食育が乳幼児期から体系的、継続的に実施されることが必要
- ・家庭において、早寝早起きや朝食をとること等の基本的な生活習慣の形成が重要
- ・職場等で健全な食生活を実践しやすい環境づくりが重要
- ・食品の選び方等基礎的な知識を持ち、行動することが必要

## &lt;重点課題の方向性&gt;

- （1）新しい生活様式に対応した食育の推進
- （2）国民の健全な食生活の実践を支える食育の推進
- （3）持続可能な食の「3つのわ（環・輪・和）」を支える食育の推進

## &lt;重点課題&gt;

- （1）若い世代を中心とした食育の推進
- （2）多様な暮らしに対応した食育の推進
- （3）健康寿命の延伸につながる食育の推進
- （4）食の循環や環境を意識した食育の推進
- （5）食文化の継承に向けた食育の推進

## &lt;食をめぐる現状&gt;

- ・新たな生活様式への対応
- ・デジタル化
- ・SDGsへのコミットメント
- ・少子高齢化
- ・成人男性の肥満、若い女性のやせ、高齢者の低栄養
- ・単独世帯や共働き世帯の増加
- ・地域社会の活力低下
- ・食の外部化の進展
- ・食や食に関する情報の氾濫
- ・食料自給率37%（平成30年、加リ-ベ-ス）
- ・食品ロス612万トン（平成29年度推計）

- ・食生活が自然の恩恵の上に成り立ち、生産者の様々な活動に支えられていることの理解を深める上で、農林漁業体験は重要
- ・学校給食に地場産物を使用し、地域の自然や産業への理解を深め、食に関する感謝の念を育むことは重要。栄養・教育関係者、生産者等関係者の協働による推進が重要
- ・持続可能な食料生産から消費に至るまでのストーリーを子供の頃から身近に感じることが重要
- ・生産から消費までの環境負荷を低減できるよう、環境と調和のとれた食料生産と消費に配慮した食育の推進が必要
- ・ユネスコ無形文化遺産「和食；日本人の伝統的な食文化」を全ての日本人が保護・継承するとともに、人材の育成が必要
- ・地域において、多様な関係者が連携・協働しながら食育を進めていくことは、国民運動の広がりのために重要

## &lt;めざす到達点&gt;

食育によるSDGs達成への貢献

- ・心身の健康の増進と豊かな人間性の形成
- ・持続可能な食・フードシステムの構築